

進化する技術と攻撃に対する これからのサイバーセキュリティ マネジメントとは

サイバーセキュリティを取り巻く環境は、5Gの実用化やクラウドの積極活用など技術が進化する一方、攻撃主体の高度化・組織化により、大きく変化しています。2020年からの新しい10年の始まり、そして東京オリンピック・パラリンピック競技大会が開催される年としても、組織のサイバーセキュリティ戦略は大きな転換期を迎え、セキュリティマネージャーの役割もますます重要となっています。

今年も情報セキュリティ、特にサイバーセキュリティの分野において最前線で活躍されている有識者をお招きし、知識の獲得や情報交換を目的にISACA東京支部がカンファレンスを開催いたします。

カンファレンス終了後に、講演者および参加者の交流の場として、懇親会（※別途申し込みが必要となります）を予定しております。皆様のご参加をお待ちしております。

日時

2020年2月15日（土）

14:00-18:00（13:30 開場）

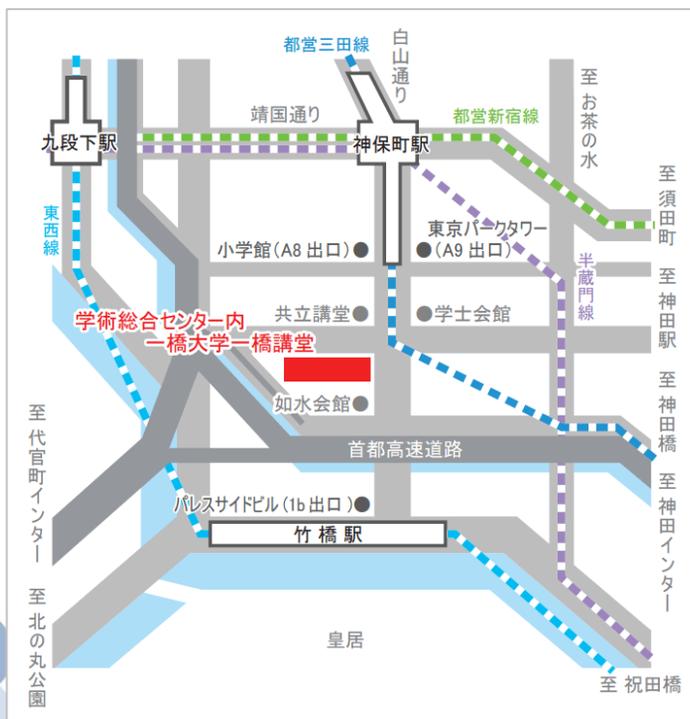
懇親会 18:30-

場所

一橋大学 一橋講堂

東京都千代田区一ツ橋 2-1-2
学術総合センター 2階

東京メトロ半蔵門線 都営三田線 都営新宿線
神保町駅（A8・A9出口）徒歩4分
東京メトロ東西線
竹橋駅（1b出口）徒歩4分



主催：ISACA東京支部
後援：(ISC)2 Japan Chapter
特定非営利活動法人 日本ネットワークセキュリティ協会（JNSA）
日本シーサート協議会（NCA）
特定非営利活動法人 日本セキュリティ監査協会(JASA)

プログラム

挨拶	14:00～ 14:10	開会の挨拶 主催者より ISACA東京支部 会長 横山 悟
講演1	14:10～ 15:00 (50分)	多様化するIT社会において情報セキュリティマネージャーが取るべき戦略 TIS株式会社エンタープライズセキュリティサービス部シニアエキスパート 印藤 晃 様
講演2	15:00～ 15:50 (50分)	生命保険会社内にSOCを持つ意義 オリックス生命保険株式会社 CIO 兼 CISO 菅沼 重幸 様
紹介	16:10～ 16:20 (10分)	CISM資格の紹介 ISACA東京支部 CISM委員会 委員長 木村 晴雄
講演3	16:20～ 17:10 (50分)	サイバーへの対処 その対策はどこまで有効なのか？ ヤフー株式会社 リスクマネジメント室 プリンシパル 高 元伸 様
講演4	17:10～ 18:00 (50分)	2020年の大事な時期に認識しておくべきサイバー空間の変化 サイバーディフェンス研究所 専務理事/上級分析官 名和 利男 様

CPE

- カンファレンス終了後のアンケートにお答えいただいた方に受講証明書を発行いたします。
50分 X 4セッション = 200分のCPEに相当します。(ISACA継続教育 4CPE相当)

参加申込

<https://cismconf2020.peatix.com/>

参加費用

一般 3,000円 / ISACA会員・後援団体 2,000円

- メールでのお申込みはお受けできません。
- Peatixの操作方法は上記申込みサイトのヘルプセンターを参照してください。

懇親会

3,500円

- カンファレンス終了後に講師の方を囲んで、ささやかな懇親会を予定しております。
- 懇親会参加は別途有償となりますが、どなたでもご参加いただけます。上記Peatixよりお申込みください。
- 懇親会会場は、一橋講堂と同じフロアの中会議場です。入場時にPeatixチケットを確認させていただきます。

お申し込み期限

2020年2月14日 (金) 17:00

(但し、会場収容可能人数に達した場合、事前に締め切ります。)

資料

- 会場では講演資料の配布を行いません。配布可能な講演資料は2020年2月上旬頃を目途に、ISACA東京支部ホームページ上で公開いたします。必要に応じて事前に印刷・ダウンロード等をしてください。

<http://www.isaca.gr.jp/cism/cismconf2020.html>

お知らせ

- セミナー講師、講演タイトル、内容等は、都合により変更させていただく場合がございます、ご了承ください。
- お申込みの際してお伺いしたお名前・メールアドレス等の個人情報、本カンファレンスの中止や延期の連絡、次回開催案内に使用させていただくことがあります。
- お申込み完了時の画面を印刷して、当日受付に提出してください。

お問い合わせ

cism-conf@isaca.gr.jp (ISACA東京支部CISMカンファレンス担当)

講演1 14:10-15:00

多様化するIT社会において情報セキュリティマネージャーが取るべき戦略

概要

情報セキュリティと情報システムは同一の器で捉えて対応が必要です。多くの情報セキュリティインシデントは人に由来して発生しています。情報セキュリティマネージャーはITの知識のみならず、ガバナンス・リスクマネジメント・コンプライアンスの三つの概念をバランスよく統制管理して運用を行う必要が有ると考えます。2015年に発生した日本年金機構での「年金情報管理システムにおける125万件の個人情報流出事案」の主たる原因もコンプライアンス違反でした。そこで、官と民、また事業体の大小を含めて、いくつかの事例を交えて、情報セキュリティマネージャーが今後どのような考え方を持って情報セキュリティに対処して行くべきか考えて見ます。



講師

TIS株式会社エンタープライズセキュリティサービス部シニアエキスパート
印藤 晃 様

略歴

新卒時百貨店に入社。実務経験後情報システム部へ異動しITの世界へ。その後コンサルファーム～SIベンダーへ。ここで内部統制と監査に出会う。J-SOX初年度の内部統制報告書を作成。システム監査関連資格を取得し、監査法人～情報セキュリティコンサルとして監査・Pマーク・ISMS等の対応。東日本大震災に心を打たれ単身で宮城県女川町役場企画課へ。マイナンバー対応準備・教育研修・システム要件定義等へ対応。この時日本年金機構個人情報流出事案が発生。厚労省最高情報セキュリティアドバイザーに着任。任期満了の後TISに在籍し、現在はGPIFの最高情報セキュリティアドバイザー兼CIO補佐官・IPA試験作成委員他。

講演2 15:00-15:50

生命保険会社内にSOCを持つ意味

概要

事業会社ではSOCを外注するケースが多いが、オリックス生命保険株式会社では構築当初から機微情報の内部不正からの保護もふまえて内製SOCを運営している。Private SOC構築の経緯から、現在の機能や特徴的なSIEMの活用事例などを紹介する。また、将来のSOCの展開についても触れる。



講師

オリックス生命保険株式会社
CIO 兼 CISO
(チーフイノベーション オフィサー 兼チーフインフォメーションセキュリティ オフィサー)
菅沼 重幸 様

略歴

IT業界に25年、保険業界に15年在職。
IT業界では、日本NCR株式会社で15年間 研究開発部門に従事、小売業及び金融業向け端末の開発、その後5年間社内IT部門を統括。インテル株式会社では、当時最新のデータセンター事業運営を統括。生保業界では、アフラック日本社にて8年間IT基盤運用部門の統括 及びアーキテクチャー部門統括、子会社管理等を行う。2012年、オリックス生命保険株式会社 常務執行役員 就任。CIOとしてIT戦略からアプリケーション開発、基盤運用、セキュリティ全般を統括。2019年7月、チーフイノベーション オフィサー 兼 チーフインフォメーションセキュリティ オフィサーに就任。

講演3 16:20-17:10

サイバーへの対処 その対策はどこまで有効なのか？

概要

サイバーリスク対応の困難さは、急速に手口が進化することにある。発生原因が偶発性やミスによるものではなく、その大半に狡猾な意思が働いているため、常に攻撃側にも創造と工夫が生まれるからである。このため企業も個々のインシデントではなく、犯罪エコシステムを背景とした、いま、そこにある危機としての対応を求められる。

激しい情報セキュリティの変化の中で、何を目指してして、何に対してリソースを投入すべきか、企業としてサイバーリスクにどう向き合うか、を考察する。

講師

ヤフー株式会社 リスクマネジメント室
プリンシパル
高元信様



略歴

日本IBM、シスコシステムズ株式会社を経て、2002年よりソフトバンクBB株式会社にて技術本部、品質管理本部、セキュリティ本部長を歴任。ソフトバンク株式会社セキュリティ対策室長補佐、ソフトバンクテレコム、ソフトバンクモバイル株式会社セキュリティ本部長を兼任し、2008年IDCフロンティア取締役システム技術本部長、2012年よりヤフー株式会社CSO室長を経て現在、リスクマネジメント室にて、セキュリティおよび企業リスク全般を担当する。

講演4 17:10-18:00

2020年の大事な時期に認識しておくべきサイバー空間の変化

概要

ここ数年、「サイバー空間を利用する主体とその形態」及び「サイバー空間を悪用する主体とその戦術・技術・手順」が速度を上げながら変化しているにも関わらず、「分業化や専門家が進むサイバーセキュリティ人材層」は、変化するサイバー脅威に適合した状況認識及び時宜を捉えた取り組みを実施することが困難な状態に陥り、個々の能力も限界を迎えようとしています。本講演では、このような実情を直視した上で、インシデントによる被害を最小化する観点で、2020年の大事に時期に認識しておくべきことを考えます。

講師

サイバーディフェンス研究所
専務理事/上級分析官
名和利男様



略歴

海上自衛隊において護衛艦のCIC（戦闘情報中枢）の業務に従事した後、航空自衛隊において信務暗号・通信業務／在日米空軍との連絡調整業務／防空指揮システム等のセキュリティ担当業務に従事。その後、JPCERTコーディネーションセンター早期警戒グループのリーダを経て、サイバーディフェンス研究所に参加。専門分野であるインシデントハンドリングの経験と実績を活かして、CSIRT構築、及び、サイバー演習等の国内第一人者として、支援サービスを提供。現在は、サイバーインテリジェンスやアクティブディフェンスに関する活動を強化中。